

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科（地理）】

1. 対 象 2年生

第1学年では「世界の諸地域」の章で、各地域における自然環境、歴史や文化などに起因する生活、産業、経済発展などの特色やそれらについての諸課題を学習してきた。第2学年では、同様の視点を持ちつつ、「日本の諸地域」について、単元ごとテーマを設定し、自分の意見を考えたり、課題解決を考えたり、今後について考え、対話、自己決定などをする活動をしている。

2. 単元名 「日本の諸地域～近畿地方の歴史的背景の今とこれから～」（全6時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	近畿地方の産業、文化の歴史的背景、開発の歴史、環境問題についての地域的特色や地域の課題を理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	近畿地方の産業、文化の歴史的背景、開発の歴史、環境問題についての成立条件を地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、そこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い

単元を通して考えるテーマ

「近畿地方の人々はどのようにして伝統的・歴史的な町並み、産業、環境を守ってきたのだろうか？」

単元の終末のまとめ

「これからの近畿地方にとって、歴史的な町並み、伝統ある産業、伝統ある水資源をどのように守っていくのが『よりよい』のだろうか？」

考えるための材料 ※○の番号は時数

1. 兵庫、三重、奈良、和歌山の木材、酒米、水を利用して伝統的に生産されている「日本酒の素材カード」。
2. 京都にある重要文化財の数や京都の良さをまとめたアンケート、京都市内で見られる景観に配慮した建物や看板などの町並みが分かる写真（過去と現在）。
3. 大阪でみられる伝統的に生産されている物や、古くからある数多くの中小企業を示す資料。
4. 日本で最大して最古の湖であるとされる琵琶湖の水資源利用の様子と水質変化を示す資料。

想定される活動（上記の番号と対応）

1. 日本酒を造るための材料、自然環境、目的、歴史などが書かれたカードを組み合わせ、順序立てて説明していく活動を通して、近畿地方の各地域で採れる物を日本酒づくりに活用し、伝統的に神仏・寺社に奉納したり、物流の中心として輸送・販売したりしていたことに気付く。
2. 特別なデザインや色合いの建物や看板が設置されている理由を、歴史的背景のある街づくりと結びつける活動を通して、条例が制定された目的や条例に込めた思いに気付く。
3. 大阪府には多くの伝統的な産業から発展してきた企業や、日本の工業力を支えてきたことを資料から読み取る活動を通して、その技術をこれからも守ったり発展させたり、良さを広め、残していこうとする人々の活動や努力、思いに気付く。
4. 琵琶湖が近畿地方にもたらす恩恵と琵琶湖の環境問題を資料やクイズから読み取る活動を通して、どのようにして滋賀県の人々が伝統ある水資源である琵琶湖の環境を守ろうとしているかについて気付く。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）※○の番号は時数

①小集団（20分）、全体（15分）

米と水は兵庫県でたくさんとれるんだ。米作りに必要な酒樽の木は紀伊山地からとれるんだ。紀伊山地は降水量が多いから樹木がよく育ちそうだ。たくさんつくった酒は、寺社に奉納される。昔から神社やお寺がたくさんあり、お祭りをやっていたんだ。大阪から江戸に船で運んで売っていた。日本海側は冬の気候が厳しく、農業はできなそうだ。だから京都や兵庫に出稼ぎにきていたんだ。これならたくさん酒造りの人手が確保できる。

②個人（7分）、小集団（8分）、全体（10分）

京都は歴史ある街だから伝統的な町並みが残っている。どうして何百年も前の町並みが残っているのだろう。条例が定められて、歴史的な町並みや雰囲気を残さなければいけないと決まっている。残そうとしている。歴史的な町並みが残っていれば、観光客もたくさん来るし、伝統や文化、歴史も守り、残していける。ただ残っているだけではなく、残そうとする努力があったり、目的があったりしたことが分かった。

③個人（7分）、小集団（8分）、全体（10分）

大阪は古代から日本の中心的な場所で、歴史の授業でも何度か登場している。大阪は商売や物作りで経済の中心地として発展してきた。近年は阪神工業地帯、卸売業年間商品販売額において東京に抜かれている。どうすればこれらの企業や産業、技術を守れるかな？歴史的な技術と最先端の技術をもっているのだから、その産業をアレンジしたり、他のものに応用したりすることで、残し、守っていけるのではないかな。企業同士の協力や他地域との貿易が大切ではないかな。頑なに伝統を守ることも大切だ。

④個人（7分）、小集団（8分）、全体（10分）

琵琶湖は近畿地方の多くの人の生活にとって不可欠で大切なものだ。水道水に使うと言うことは綺麗なのかな？意外と透明度が低くて、綺麗とは言えない。大丈夫なのだろうか？どうやってあの大きな湖の水質を守っているのだろう。条例を制定して決まりを作っている。自然環境を守ることできれいにしようとしている。生態系を守ることによって水質を守っている。地域の人々や県の努力や工夫、運動があった。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

【単元を通して考えるテーマに対して】（第5時～第6時で実施）

A＝歴史的な文化や建物、伝統的な産業や工業、琵琶湖の水資源や環境など、現在でも残っているものは、たまたま残っているのではなく、残そうとする取組や人々の努力、思いがあって残されている。それらを大切にし、活用することで、価値を再評価したり、現在抱えている課題（観光、集客、技術革新、水問題など）解決の手段になったり、ヒントにしたりすることができる。これから未来まで、残していく為に、今生きている私たちもその地域や、自分たちの地域の守られているものやことを大切にしたり、見直したり、再注目してみたい。

B＝歴史的な文化や建物が多く残っている地域だから、重要なものだし、観光客もそれらを目当てに来るので、条例

で決まりを作って守ろうとしている。

伝統的な産業から始まった工業の中には、すごい技術を持っている中小企業が多い。技術を転用したり、広めたりして工夫して残ろうとしている。

琵琶湖の水資源や環境について、近畿地方の人にとって大切なものなので、清掃活動や条例の制定で守ろうとしている。

C＝Bに達しない記述

【単元の終末のまとめに対して】（第5時～第6時で実施）

・これから100年も1000年先まで歴史的な景観や建物、産業、歴史的に長く大切にされてきた水資源や環境を残していくために規制をさらに細かく、厳しく設定していくことで、ずっと先まで残していくことができるから、条例を厳しく制定していく方がよいと思う。

- ・これからの未来、もっと生活しやすくするために条例に縛りすぎるのもよくないと思う。規制する範囲をより限定するとか、規制を緩くする場所などがあってもよいと思う。
- ・伝統産業の中には、現代の工業や物作りに必要な技術や改めてみると凄いいと思える様な技術もあると思うから、他の大きな企業や国、県などと連携し合って技術を再利用、再評価していくのがよいと思う。